

新春を迎えて

長野県知事 阿部 守一



新年明けましておめでとうござい
ます。謹んで新春のお慶びを申し上
げます。
県民の皆様から様々な御支援、御
協力を賜ることにより、旧年中も県
政を前進させることができました。

深く感謝申し上げます。
さて、現在はVUCA(変動性、不確実性、複雑性、
曖昧性)の時代と言われています。感染症の世界的流行、
気候変動による自然災害の多発化・激甚化、IT技術の
急速な変化に伴う産業構造の激変など、世界は劇的に変
化しています。黒船襲来から大政奉還を経て欧米列強と
肩を並べるに至った明治時代や、第二次世界大戦の焼け
跡から立ち上がり奇跡的な経済復興を遂げた昭和期など
のように、将来が見通しにくい時こそ新しい未来への発

新年のあいさつ

理事長 小林 和夫



新年あけましておめでとうござい
ます。皆様には健やかに新年をお迎
えの事とお慶び申し上げます。
新型コロナウイルス感染症も令和
五年春頃から全国的に落ち着き、減
少の状況が今日まで続いています。
お陰で六年度も各事業をスムーズに実施する事が出来
ています。此れも、皆様の熱心なご協力の賜物と感謝申
しあげます。さて最近、コロナ感染症が減少状況のため各地で人出
も多く、また其の多くの人達がマスクを着用していない
のが今日の状況です。其の為か、私達の周辺で、思い掛
けない人達のコロナ感染が増えています。更に今年は、
インフルエンザの早期流行も報じられています。各感
染症が蔓延時以上に危険な環境では無いかと思

います。常

発行所
社会福祉 長野県身体障害者
法人福祉協会
長野市中御所岡田98-1
TEL 026 (228) 0317
mail: info@nagasin.sakura.ne.jp
編集発行人 小林 和夫



県身障協バッチ

展のチャンスが潜んでいます。
急激な人口減少という構造変
化は、将来への希望の種でもあ
ります。若い人たちの価値観は
多様性、包摂性をこれまで以上
に認める方向に変化していま
す。担い手の不足は、誰もが活
躍できる可能性を広げていま
す。子どもの数が増える局面で
は困難であった個別最適な学びはより実現しやすくなっ
ています。AI・デジタルやロボット技術の進歩は、産
業の生産性や暮らしの利便性を高めつつあります。令和
七年は、急激な人口減少という大きな社会構造の変化を、
明るい未来に向けた変革への好機ととらえ、引き続き「対
話と共創」を重視してまいります。

特に、楽しいまちづくり等生活圏の整備については、
人口減少期には、分散から集住への転換や社会インフラ
の最適化を進めなければなりません。また、災害が激甚
化、多発化する中では、より安全性の高い地域に都市機
能を集積させることも必要です。こうした視点を踏まえ、
県民の皆様からの要請が強い楽しいまちや便利な交通を
もあわせて実現することができるよう、県土グランドデ
ザインの策定に取り組んでまいります。
今年には戦後80年を迎えます。平和の尊さを改めて胸に刻
み、ゆたかな長野県づくりに全力を尽くし、未来への希望
を育んでまいります。今年一年の皆様のご健康と御多幸を
心よりお祈り申し上げます、新年の御挨拶いたします。

に感染予防の厳守が大切ではないでしょうか。
令和四年四月一日施行された、「障がい者共生社会づく
り長野県条例」に規定された「障害者の合理的配慮の
意思表示」の制度は、「共生社会づくり」のために真に
有効な制度であります。しかし、この制度は障害者自身
が「意思表示」を発する事によって初めて制度の効果が
発生するのであります。

障害者個人を肩代わりして「身障協」の様な組織が「意
思表示」を代行しても、其れは単なる「要望事項」の申
し出に過ぎず、其の事に行政及び事業所の法的対応の責
務を生じさせるものではありません。障害者自身が「声」
を発しなければ、此の制度は絵に描いた餅となっていま
います。日々の暮らしの中で生活し難い、「社会的障壁」
を見出した折には、「障壁」改善の意思表示を是非積極
的に実施する事をお願いします。
結びに皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げ、年頭の
ご挨拶いたします。

令和6年度表彰受賞者名簿

知事表彰

○社会福祉表彰―障がい者福祉分野

堀内 清 (上田市)

荻原 美智子 (佐久市)

理事長表彰

○郡市協会役員8年以上在籍し顕著な功績の

あつた者

野久 三枝子 (小諸市)

西川 洋美 (上田市)

野田 範英 (木曾町)

丸山 勝 (長野市)



第73回 長野県社会福祉大会

(信州ふっころフエスティバル2024併催)
(第74回 長野県身体障害者福祉大会併催)

塩原敬治副理事長 丸山 勝 様

部長懇談要望項目及び回答

令和6年10月23日、県庁特別会議室において県健康福祉部長と県身体障害者福祉協会との懇談が行われました。要望内容及び回答要旨は左記のとおりです。

組んで参ります。

(障がい者支援課)

1 「共生社会」を実現するための、「社会的障壁」の除去について

○ 令和4年度に長野県障がい者共生条例を施行し、県民の方々には以下の方法で広報啓発を行ってまいりました。

- ・ 県広報ラジオ番組で周知。
- ・ イベント会場での障がい体験ブースやパネル展示。
- ・ 共生社会づくりフォーラムの開催。
- ・ 出前講座の実施。
- ・ 優れた合理的配慮を提供する事業所を「ともいきカンパニー」として認定。
- ・ 障がい者や福祉の現場等を取材したミニ番組を制作、放送。
- ・ 障がい当事者と共に障がい理解のためのワークショップ開催。
- ・ 障がい理解のための啓発CM及び動画の制作、放送。
- 引き続き、条例の目的及び基本理念のつとめ、「障がいの社会モデル」の考え方を広め、お互いの前向きな建設的対話と工夫により、共生社会づくりがより一層進むよう取り

2 ヘルプマーク制度とパーキングパーミット制度に関する県民への周知と改善について

○ ヘルプマークの周知については、令和元年に2人の個人と3つの団体をヘルプマークディレクターに委嘱し、様々なイベントでのブースの出演や小学校・中学校での講演など活発に活動していただいております。

○ また、当課に所属する信州あいサポート推進員が、県内の企業等を訪問し、信州あいサポート運動及びヘルプマークの目的等を説明してまいります。特にヘルプマークのポスター掲示については訪問したほぼすべての事業者から了承を得て掲示をしていただいております。

○ 信州あいサポート運動とヘルプマークの普及啓発を両輪とし、受け手側・支え手側の相互理解の好循環が生まれる取組を引き続き推進してまいります。

○ ホームページには最新の情報を掲載してまいります。

○ パーキングパーミット制度については、障がい者等用駐車区画を真に必要な方が利用しやすくするため、県ホームページや市町村等関係機関を通じて制度の周知を図ると

もに、どの地域でも快適に暮らしていけるよう、引き続き医療機関や商業施設等へ協力を呼び掛け、協力施設の拡大を図って参ります。

(障がい者支援課、地域福祉課)

3 身体障害者相談員(ピア)の配置拡大に関する要望について

○ 身体障害者相談員の配置については、委託者である市町村で検討を行っていただく必要があるため、市町村担当者会議において、配置している市町村の状況等について共有したところでです。

○ 「総合(基幹)相談支援センター」と身体障害者相談員は、法律等の根拠は異なるものの、障がいのある方々の話を丁寧に聞き、相談に応じ、必要な援助を行うという基本的な姿勢は大きく異なるものではないと考えますが、同じ立場で話を聞き理解してもらえ、安心感等を求める相談者もいることと思っております。

○ 一部の障害福祉サービスでは、所定の要件を満たすピアサポーターを雇用し、ピアサポート業務を行うことで算定できる加算が創設されており、長野県ではその要件の一つである研修会の令和6年度からの開催に取組んでいます。今後、多くの障害福祉サービス事業所においてピアサポート業務が行われるよう、研修会の開催を継続してまいります。

(障がい者支援課)

4 長野県社会福祉総合センター(仮称)の早期建設を希望します。

○ 移転により各団体との意思疎通がこれまで以上に円滑に行われる環境となり、県としても県内福祉の向上に向けた取組の連携を密にして進めてまいります。

○ 会議室等施設面で御不便をおかけしておりますが、日程等の調整をさせていただきます。

○ 御要望の「社会福祉総合センター(仮称)」については、各団体の活動状況等を踏まえた上で将来のあり方を検討してまいります。

(地域福祉課)

5 障害者福祉施策に係る予算の充実確保を要望します。

○ 高齢化等による社会保障関係費の増加により、国・県・市町村の財政事情は大変厳しい状況であり、人口減少下において、今後更に厳しさを増すことが見込まれております。このような状況において、障がいのある方が地域で安心して暮らしていくことができるよう、国の動向を注視しながら必要な予算の確保に努めるとともに、今年3月に策定いたしました長野県障がい者プラン2024に掲げた各種施策について、着実に推進してまいります。

○ また県と対等な関係である市町村においても、障害福祉サービス等の必要な見込量や地域の実情を踏まえ

た障害福祉計画・障害児福祉計画を策定していますので、同計画に基づいて福祉サービスが提供されていますものと認識しています。引き続き、市町村と連携して障がい福祉施策を推進してまいります。

(障がい者支援課)



笹刈美香健康福祉部長 小林和夫理事長

ふれあい広場に参加

伊那市身体障害者福祉協会
青木 英雄

去る九月八日、伊那市福祉まちづくりセンターで快晴のもと、福祉のお祭りが開催されました。

内容的には「ステージ発表」「体験コーナー」「飲食、販売ブース」「作品展示」等々盛りだくさんの催し物です。我が身障協では、「綿あめ」「アイスコーヒー」「お茶」等を提供しました。当日はボランティアの先生や生徒さ

んも一緒に手伝っていただいで、我々顔負けの成果に非常に助かりました。

特に綿

あめは形よく、上手の出来栄えで、非常に上手くいて、お客さん(特に子供さん)にも喜ばれました。



またアイスコーヒーも当日は非常に暑かったので、飛ぶように売れました。いずれにしても内容的には両方とも昨年を上回る成果でした。

今回でお祭りは十八回目ですが、今後も市民誰もが「ふれあい」交流する事を念頭に、積極的に参加したいと思います。



健康教室開催のご報告

大町市身体障害者福祉協会
会長 丸山美栄子

新型コロナウイルスが五類に移行され、昨年からの会員の健康と親睦を兼ね、健康教室が開催されています。今年も大町市福祉センターに於いて十一月十七日(日) 九時から、二十名の参加者によりスポーツ指導員、岡秀子先生のご指導のもとで、ボッチャとモルックというフィンランドのカレリア地方の伝統的なゲームを元に開発されたスポーツを体験しました。

最初にボッチャをグループ分けして対抗戦を行いました。昨年からは健康教室や大北地区運動会での体験を重ねた経験から、会員の上達ぶりは競技を楽しむ段階に入っています。又、競技を応援しながら日頃の情報を交換することとは、ストレス解消のために大変良い事だと思えます。誰でも参加できる競技はそんなに多くはありません。楽しさを拡げたいと思ったら思っています。モルックと



いうボーリングに似た「スキットル」という木のピンを倒し、得点を競う競技は初めての体験でした。簡単なルールで年齢や性別に関係なく楽しめるスポーツです。参加人数は自由で決まら、今回はチーム3人で対抗戦を行いました。基本ルールはモルック「木の棒」を投げて倒れたスキットルの内容(本数または表示されている数字)によって、五〇点ピッタリになるまで競います。先に得点した方が勝ちというとてもシンプルなルールですが、得点を超えると二十五点に減点され、時間を忘れて楽しめま。計算しながらチームで作戦を立てるのは、認知症予防対策にもつながります。健康教室が障がい者の「孤立化対策」に於いても重要な施策だと確信しております。令和十年に長野県に於いて開催予定の「第八十二回国民スポーツ大会・第二十七回全国障害者スポーツ大会」が計画されています。



参加を夢見て、清々しい気持ちで感謝しながら帰途につきました。

第27回長野県障がい者文化芸術祭

第27回長野県障がい者文化芸術祭 in ながのが 9月28日(土)～29日(日)、サンアップルで開催されました。

また「ウェブ展示会」も現在開催されています。

どなたでも気軽にPC・スマートフォンでご覧いただけます。

<ホームページアドレス> <https://nagano-bungeisai.jp>

〇知事賞受賞のみなさん

- 絵画の部 成 沢 茂 見 (上田市)
- 手芸の部 大久保 真 耶 (大町市)
- 工芸の部 繁 田 昌 子 (岡谷市)
- 書道の部 岡 村 幾 子 (須坂市)
- 写真の部 金 森 悦 三 (高森町)
- 文芸の部 成 澤 裕里江 (上田市)



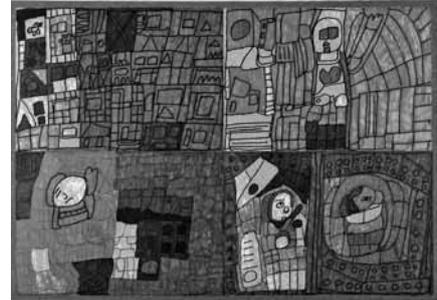
【書道】 岡村 幾子
「雁聲風処断樹月中寒」



【写真】 金森 悦三
「猛吹雪のしだれ栗」



【工芸】 切り絵
「佛の世界」
繁田 昌子



【絵画】 「しげみ」
成沢 茂見



【手芸】 大久保真耶
「カラフル クロコダイル バック」

文芸部門 自由詩「輝」

輝く笑顔、輝く命
 私たちの日常には
 たくさんの輝きがある
 太陽だけが輝いてるわけじゃない。
 たくさんの人、多くの命
 様々な場所で輝ける、輝いているんだ。
 老若男女、人種問わず誰でも輝ける
 場所がそこにある。
 辛くても、苦しくても
 笑顔になれば
 乗り越えれば
 ひとつの輝きが生まれる。
 どんな場所で輝けてる？
 どんな時に輝いてる？
 一人一人輝きかたが違っていいじゃない？
 一生懸命働いてる時
 誰かと楽しいこと話してる時
 笑ってる時
 全てが輝いて見えるんだ。

【文芸】 成澤裕里江 「輝」

あとがき

令和七年の年頭にあたり、今年一年の会員の皆様の御健康と、御活躍を心から御祈念申しあげます。
 「元気が一番」この心意気で全てに前向きで、すごしていきたいと思います！！
 風邪をひかれませぬように！！
 祈っております。

編集委員長 丸山美栄子

障がいのある方々と共に成長し 社会に貢献していきます

企画・デザインから製造・販売までワンストップで！

業 務 内 容

印刷 あらゆる印刷物の企画・デザインから製造・仕分・販売までのシステムを事業所内に整えています。 広報誌/記念誌/自費出版/文集/チラシ・パンフレット など

縫製 オリジナルプリントの縫製品をデザインから一貫生産。また防災用品の販売も行っています。 被服/のぼり旗/バッグ/帽子/各種防災用品 など



指定就労継続支援(A型)事業所
社会福祉法人 **ながのコロニー** 長野福祉工場
〒381-8580 長野市徳間1443 TEL 026-296-1411 <http://nagano-colony.or.jp>

お気軽にお問い合わせ下さい。皆さまからいただいたお仕事は、障がい者の雇用促進につながります。

収益事業に ご理解とご協力を

日身連事業所は、各町内会・自治会のご協力を得て、回覧カタログによる収益事業と、皆様の福祉会からの「お茶」販売で県身障協と地元福祉会の財源確保のお手伝いをさせて頂いております。宜しくお願い致します。



日身連収益事業所

東京都渋谷区代々木5-57-6
所長 佐藤 宏
フリーダイヤル 0120-450-450